

**店舗ファサードの意匠・施工技術を競う「LIXILフロントコンテスト2019」
“ストアフロント日本一”が決定
「グランベリーパーク」(東京都町田市)がグランプリを受賞**

株式会社 LIXIL は、LIXIL のフロント製品を使用した店舗ファサードの意匠・施工技術を競う「LIXIL フロントコンテスト 2019」において、全国の設計事務所、建設会社、販売店、加工店、代理店による過去最多 1,674 作品の応募のなかから、優秀作品 11 点を選出し、グランプリを「グランベリーパーク」(東京都町田市)に決定しました。

今回グランプリを受賞した「グランベリーパーク」は、商材を線材のサッシで枠取りして並べ、人工物に対して、公園や大階段の緑など自然物を配して街の風景を完成させた個と全体の見事なバランスが評価された受賞となりました。



グランプリ受賞作品「グランベリーパーク」(東京都町田市)

審査は、加工・施工技術、デザイン性、建物全体との調和等を審査基準としており、本コンテストでは、グランプリをはじめ、“小規模部門”“大規模部門”各部門の金賞(2点)、銀賞(3点)、銅賞(4点)、ならびに特別賞(1点)を選出しました。

<参考資料>

■ 審査員長 柘植喜治（つげ きはる）氏による総評

昨今の情報通信分野の飛躍的な進歩は、私達の社会に産業革命以来の変革期をもたらしている。デジタル・テクノロジーは様々な分野にイノベーションを興し、建築分野でも BIM による情報管理、AI による通信、移動など情報処理が加速する。デジタルツインと呼ばれる仮想空間の操作により、企画設計管理運用業務は専門化・細分化されていく。

一方でオープン・イノベーションが注目されはじめている。専門特化した企業内、業界内の枠を超えて、他社や大学、地方自治体、社会起業家など異業種が自由に参加するプラットフォームは、異分野が持つ技術やアイデア、データ、知識などを組み合わせ、革新的なビジネスモデルから製品開発、ソーシャルイノベーションまで仮想空間に生み出している。

翻って実空間を見ると、そこには様々なモノ、人が集まり、異質なものが混在することで化学反応を生み、新たなイノベーションが生まれる潜在性があるものの、情報通信革命の影に隠れた感は否めない事実だ。

本年度のコンテストの応募作品には、こうした現代のデジタルコミュニケーションにより細分化され孤立していく要素を、もう一度実空間の中に繋ごうとする作品が散見された。特に生産と消費、地域と個人、自然と都市など異なる要素を実空間の操作により繋いでいく空間コミュニケーションに焦点を当てた作品が際立った。

新しい社会制度に対応するデザインは更新しなければならない。これを見抜いて、土地利用、施設用途、建築、デザインを再編集しようとする作品であり、社会的意味において、建築内外の要素・用途を検証してそれらを繋ぐ開口部のありようを提示した。グランプリと大規模・小規模金賞作品はデジタルテクノロジーの進展により分断され孤立していく現代社会の諸相をもう一度繋ぎ直す空間操作であり、とりわけ開口部に於ける最先端なデザインとして未来のフロント材の可能性を強く示唆する時代を画した功績として高く評価したい。

■ “グランプリ” 受賞作品

『グランベリーパーク』（東京都町田市）

設計事務所／株式会社東急設計コンサルタント 様

建設会社／東急・鉄建・京王・東急リニューアル建設共同企業体 様

販売店／日本軽窓株式会社 様

加工店／フロンテック神奈川株式会社 様



<審査員評価ポイント>

ネット通販急成長の影で既存商業施設の衰退が加速するなか、人が集まる商業施設ができた。しかも大勢の人が笑顔で歩いている。忘れかけていた光景だ。鍵は個と全体のバランスである。SC 全体をオーケストラに例えれば、入居するテナントは個々の楽器であり、それらがメロディーを奏でながら壮大なシンフォニーを奏でる。海外に比べて日本の SC・商業施設はテナントの立場が強く、壁面があればすぐに個を主張して看板を掛け商品を溢れさせる。顧客はその不協和音に耳を閉ざし SC は集客力を失う。こうした情報過多の商環境を改革すべく、本物件の開発者はクライテリアを重視、テナントとモールの境界を重視した内装管理規定を作り上げた。

ストアフロントでは看板の出し方、リーシングラインとサッシ廻りなどガイドラインを徹底、デザインレギュレーションではサッシ廻りの什器、残置灯、点灯時間帯、欄間サイン等街への賑わいと統一感に配慮、更に共用部への顔出しや、道路面に対する見え方等都市的な景観づくりを目指した。これは視覚効果を優先した VMD

の理念を都市規模の SC に展開したものだ。個々の店の情報をフロント材の額縁に入れるように商環境の情報を点、線、面、として整理している。点とは商材や人などの点景、線とは柱、梁、手摺、キャノピー、そしてサッシなどのフロント材である。これに壁など面材を加えた 3 要素をグラフィックデザイン的に処理した。特筆すべきは商材を線材のサッシで枠取りして並べ、人工物に対して、公園や大階段の緑など自然物を配して街の風景を完成させた個と全体の見事なバランスである。

情報量の多い都市景観なかで如何に商材を浮き立たせるかという難問を、街並みの中にウィンドウを際立たせることで解決した。その結果大規模施設でありながら、回遊や散策を促す人々が歩く街を実現したことは偉業である。商業に於ける仮想空間の進化が目覚ましい中、実空間としての街の風景、商環境のあるべき姿を提示したことは、大変に意味深く称賛に値する。特にフロント材を大規模に展開したデザインは本コンテストの趣旨にまさに合致するものであり本年度グランプリに選抜した。

■ “小規模部門”金賞 受賞作品 『プラス薬局みさと店』（群馬県高崎市）

設計事務所／工藤浩平建築設計事務所 様
建設会社／株式会社住建トレーディング 様
販売店／エヌ・エス・トーヨー住器株式会社 様
加工店／サンアルミ建材株式会社 様



<審査員評価ポイント>

本作品は人と人の出会いと、情報通信技術の相反するコミュニケーション手段のどちらも重視しながら、双方の可能性を盛り込んで両立させる施設に昇華させたデザインに注目した。周辺地区に点在する医療、児童・介護福祉施設など現代の行政区分で細分化された施設群は、子供から高齢者まで幅広い人たちが利用する。この作品はこれらを周辺を繋ぐことが可能であり、公共性の高い地域の拠点としてデザインした点に先見の明がある。またこの施設は厚生労働省の地域包括ケアシステム など医師や病院との連携他の医療機関や介護職種との連携して地域全体に医療・介護を提供するなどその活動内容は実に多様である。

こうした背景から多様な利用者と多様なサービスを繋ぐことで更に公共性の高い地域の拠点になることを目指した。また施設に於ける多様な業務や活動をオン・オフ双方のコミュニケーションで対応しようとした点で卓見がうかがい知れる。電話、医療用 SNS、メール、カンファレンスなどを駆使して仮想空間で他の医療機関と連携してオン・ラインで情報共有する。また定期的な健康教室など実空間に人を集めてのセミナー実施、体力測定、イベントやセミナーなどオフ・ラインで人が集まる。この様に相反する活動とコミュニケーションの双方に適合するデザインとは何かという命題に対して、設計者は思い切った解を導き出した。それは開口部と言うより、壁面を可能な限り開いて全ての事象を開示しようとする潔さである。

これまでの医療関連施設の多くは社会的弱者を外敵から守ることを重視して閉鎖的であるのに対して、この施設は実に開放的で明るく、そこで行われる様々な活動を発信することで利用者にして地域社会に貢献できることを立証した。オン・オフ・コミュニケーション双方のニーズに対応する公共性の高い空間のモデルとして多くの示唆に富んでおり、今後同様の施設計画に大きな影響を及ぼすことを期待して金賞を贈賞したい。

■ “大規模部門”金賞 受賞作品 『近鉄天王寺公園再整備事業 2期』(大阪府大阪市)

設計事務所／株式会社竹中工務店 様
加工 店／岡山ビルサッシ工業株式会社 様



<審査員評価ポイント>

都市公園法の改正で規制が緩和されて、官民連携（PPP/PFI）の開発手法が全国に展開しはじめた。大阪市との官民連携によるパークマネジメントの先駆けとして、近鉄天王寺公園再整備事は高い評価を受けているが、審査の過程ではそのデザインに着目した。

天王寺公園エントランスエリア、いわゆる「てんしば」は、高密度のあべのの再開発に対峙して低密度の芝生広場と、それに見合う建築群による社会資本整備のモデルとして高く評価された。

ピクニックなど公園活動は、ニューヨークのブライアントパークが有名だが、それ以上の集客と使い方がここにはある。建築は芝生広場に向けてその開口を最大化、フロントは都市公園ならではのデザインだ。飲食・物販施設の設置・運営とイベント開催など民間事業者によるオペレーションモデルは都市公園のありかたに影響を及ぼした。

今回特に評価したのは天王寺動物園ゲートエリアにおける動線と架構である。屋根や軒など雨天対策だけでなく、都市活動を快適なものにする点で優れている。かつて日本の商店街はアーケードの設置、撤去、オープンモールの変遷を経て商店街における架構はどうあるべきか議論が繰り返されてきた。その問いに対しては一つの解決を提示したものとして評価できる。動物園動線はビフォー・アフター・ショーとして設定されている。これは米国アナハイムのダウンタウンディズニーにも見られる伝統的な計画手法であるが、ここが優れている点はパーゴラと建築群を巧みに組み合わせるハイブリッド空間を作り上げた点だ。しかも動線に沿って見え隠れするボルダリングやアスレチックなどアウトドア系のテナントミックスが絶妙でストア・フロントを介して施設内外の空間を巧妙に繋いでいる空間デザインが見事である。

フロント材を駆使して魅力向上を計る施設計画ノウハウを、行政が保有する社会資本と融合する官民連携事業は、今後都市におけるアセットマネジメント手法として非常に有為であり金賞贈賞と判断した。

■ LIXIL フロントコンテスト 2019 受賞一覧（敬称略）

<小規模施設部門・大規模施設部門>

賞名	作品名	所在地	設計事務所様	建設会社様	販売店様	加工店様	
グランプリ	グランベリーパーク	東京都町田市	(株)東急設計コンサルタント	東急・鉄建・京王・東急リニューアル建設共同企業体	日本軽窓(株)	フロンテック神奈川(株)	
小規模	金賞	プラス薬局みさと店	群馬県高崎市	工藤浩平建築設計事務所	(株)住建トレーディング	エヌ・エス・トーヨー住器(株)	サンアルミ建材(株)
	銀賞	リソナーレ那須 POKO POKO	栃木県那須郡	(株)クライン・ダイサム 一級建築士事務所	(株)シェルター	(株)日東軽金山形支店	泉建工業(株)
	銀賞	春田様邸	福岡県宗像市	D A B U R A . i (株)	(有)楠建設	別鉄サッシ工業(株)	(有)南九州サッシ工業
	銅賞	atelier N	埼玉県越谷市	中村浩士建築設計事務所	中村工務店(株)	(株)曙アルミ建材	(株)大牧工業所
	銅賞	矢保利の館	長野県上水内郡	(株)TRUNK (株)トライトー級建築士事務所	川中島建設・黒姫ホームサービス JV	(株)本久	(株)白根アルミ
大規模	金賞	近鉄天王寺公園 再整備事業 2期	大阪府大阪市	(株)竹中工務店	—	—	岡山ビルサッシ工業(株)
	銀賞	伊野小学校	高知県吾川郡	上田、細木設計共同企業体	新進・勝賀瀬特定建設工事共同企業体	(株)建商	(株)ファイン
	銅賞	知多自動車学校 新校舎	愛知県半田市	(株)青島設計	(株)七番組	—	トヨハシフロント(株) (株)甲賀
	銅賞	城谷保育所	島根県安来市	(株)中林建築設計事務所	(株)鴻池組	福間商事(株)	岡山ビルサッシ工業(株)
特別賞	鮎川浜地区 観光物産交流施設	宮城県石巻市	(株)佐藤総合計画 東北オフィス	日本製紙石巻テクノ(株)	(株)平塚アルミ工業	(株)かんぜん	

■ 開催概要

1. 応募資格

LIXIL のフロントサッシ（店舗用建材）をお取り扱いの設計事務所さま、建設会社さま、販売店さま、加工店さま、代理店さま。

2. 応募対象物件

2019年1月1日から2019年12月31日までに、当社のフロントサッシを使用した施工物件で、建物全体が完成し、お施主さまへの引き渡し完了しているもの。

3. 募集対象部門

部門	対象物件例
小規模施設	クリーニング店、コーヒーショップ、小型飲食店、生花店 等
大規模施設	デパート、スーパー、パチンコ店、カーディーラー、レストラン、大型公共施設

4. 審査委員

審査委員長：柘植 喜治（つげ きはる）氏：空間プロデューサー、千葉大学名誉教授
審査委員：高柳 英明（たかやなぎ ひであき）氏：東京都市大学准教授

5. 審査方法

加工・施工技術、デザイン性、建物全体との調和を中心に総合的に審査します。

6. 賞

- ①グランプリ：「小規模施設部門」「大規模施設部門」より1点
- ②「小規模施設部門」「大規模施設部門」
金賞、銀賞、銅賞：各部門より数点
- ③「特別賞」応募作品の中から数点